

2026 年秋の聖書セミナー申込書

9/19(土) - 9/23(水)
ダヴァール名古屋支部にて
(申し込みは 9 月 12 日まで)



- ◇ ネットにおけるライブ配信、また、期限限定でオンデマンド配信も可能です。
- ◇ 配信のみの参加、また会場での部分参加の方も、全参加と同様にお申し込みください。
- ◇ 参加費は、全参加、部分参加を問わず、また会場での参加、配信による参加を問わず、同じです。
- ◇ 宿泊はご自身で確保してください。
- ◇ 参加費に食費は含まれておりません。
- ◇ 3才以下の子供は無料。尚、11才以下の子供のみによる会場への参加はお断りします。

	一人につき	人数	合計
大人 (12才以上)	US\$30 5000円	x	=
子供 (4-11才)	US\$15 2500円	x	=
支払い合計			=



子を産まない不妊の女よ。
喜び歌え。
産みの苦しみを知らない女よ。
喜びの歌声をあげて叫べ。
夫に捨てられた女の子どもは、
夫のある女の子どもよりも多いからだ。

(イザヤ 54:1)



会場への参加希望

- ◇ 会場へ参加される方は、その人数を知る必要があるので、以下の表に、参加予定のセッションにチェックしてください。
- ◇ 申込後、参加の変更がある場合も、教会にお知らせください。
- ◇ 日曜礼拝のみの参加は、申し込みの必要はありません。

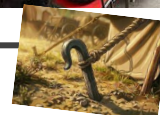
	9/19 土	9/20 日	9/21 月	9/22 火	9/23 水
朝の 祈禱会	なし				
朝の 聖書研究	なし	日曜 礼拝			
午後の 活動	なし		洗礼式		なし
夜の 礼拝					なし

メモ (教会に知らせたいことをお書き下さい)



あなたは右と左にふえ広がり、
あなたの子孫は、国々を所有し、
荒れ果てた町々を人の住む所とするからだ。

(イザヤ 54:3)



参加者名 (参加するお子さんの年齢もご記入下さい) :

電話番号: _____

E-mail: _____

住所: _____

市 _____ 州 _____

郵便番号: _____

私 (たち) は、ここに、この 2026 年ダヴァール日本秋のミニ聖書セミナーの間、ダヴァール教会の定める決まりや注意事項に従い、また聖書に示されている基準に従って、互いに愛し合うことを同意します。また、会場へのドライブを含め、セミナー期間中における、私 (たち) の持ち物の紛失、事故、また怪我などの責任はいっさい私 (たち) にあることを認めます。

この申込書とともに、参加費 _____ を支払います。

サイン _____
(代表者のみで結構です。)

日付 _____



申込書は電子メールに送付して、campjapan@davar.org へお送りください。申込料は、USD で Paypal にて、あるいは、日本円 (現金) でそれぞれの支部のリーダーにお渡しください。

ダヴァール教会名古屋支部
〒463-0034 名古屋市守山区四軒家 2-315
TEL: 052-771-0502

Davar ロス本部
Website: www.davarkg.com
Mail: info@davarkg.com

ダヴァール教会
名古屋支部

〒463-0034
名古屋市守山区
四軒家 2-315
TEL:052-771-0502



地下鉄東山線藤が丘駅から徒歩 20 分
藤が丘から市バスで新藤森橋停留所下車徒歩 2 分



あなたの天幕の場所を広げ、あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし、綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ（イザヤ 54:2）。

これは、ユダの国が偶像礼拝のために滅ぼされ、生き残った人々がバビロンへ捕囚として連れて行かれた後、神様が語られたことばです。紀元前 539 年のペルシャのクロス王の勅令により、捕囚の民の一部がエルサレムに戻り、さまざまな困難の中、神殿を建て直したものの、周囲の国々の圧迫の中でイスラエルはかつてのような輝きを失い、細々と生活していました。実は、上のみことばの「あなた」は女性形であり、これはエルサレムを人格化して語られたことばです。

子を産まない不妊の女よ。喜び歌え。産みの苦しみを知らない女よ。喜びの歌声をあげて叫べ。夫に捨てられた女の子どもは、夫のある女の子どもよりも多いからだ（1 節）。

エルサレムが不妊の女で子どもがおらず、しかも夫に捨てられた女として描かれています。それは、偶像礼拝のせいで神様から見捨てられたエルサレムの町のことです。ところが、神様がその女に「あなたの天幕の場所を広げよ」と命じられたのは、彼女に多くの子どもが生まれてくるので、その子どもたちが住めるように天幕を広げ、彼らが住めるようにするためです。

あなたは右と左にふえ広がり、あなたの子孫は、国々を所有し、荒れ果てた町々を人の住む所とするからだ（3 節）。

同じイザヤ書の 66 章には、エルサレムの子どもの誕生を以下のようにも預言しています。

彼女は産みの苦しみをする前に産み、陣痛の起こる前に男の子を産み落とした。だが、このような事を聞き、だが、これらの事を見たか。地は一日の陣痛で産み出されようか。国は一瞬にして生まれようか。ところがシオンは、陣痛を起こすと同時に子らを産んだのだ（66:7-8）。

最初に生まれる「男の子」はひとりですが、それに続き、多くの「子ら」が生まれて、そこに「国」が誕生することです。これがエルサレムの上に実現したのはいつのことでしょうか。この「国」とか「子ら」とは、目に見えるイスラエルの国や民のことでしょうか。パウロは、私たちキリストにある者にとってのエルサレムを「上にあるエルサレム」と呼んで、次のように言っています。

しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です（ガラテヤ 4:26）。

さあ、これらのことばの語る真理を、信仰を持って、今日の私たちの霊的現実として受け取ると、どういう意味になるでしょうか。私たちにはどんな使命が与えられているのでしょうか。万軍の主の「あなたの天幕の場所を広げよ」という命令に、エルサレムとともに喜びの声をあげて、心一つにして、その幕、綱、くいの一部になろうという志のある者たちよ、みな集まれ！

天幕を 広げよ！

あなたの天幕の場所を広げ、
あなたの住まいの幕を惜しみなく針伸ばし、
綱を長くし、鉄のくいを強固にせよ。

（イザヤ 54:2）

ダヴァール日本
秋の 聖書セミナー
2026年9月19日～23日

ダヴァール名古屋支部にて
講師：浅井導牧師